



秋田県 農業農村工学職の実務



◆農業農村工学職の配属先について

主な配属先は本庁2課(農地整備課、農山村振興課)や地域振興局など(8振興局、8課1事務所)です。

本庁(農林水産部)

農林政策課

企画・広報班
担い手支援班

農山村振興課

国土調査班
農村整備計画班
地域環境保全班
調整・地域活性化班

水田総合利用課

土壌・環境対策班

農地整備課

技術管理班
農地整備班
水利整備・防災班
土地改良指導班
調整・企画班

水産漁港課

漁港・漁村整備班

地域振興局 農林部

農業振興普及課

農村整備課



◆農業農村工学職の主な業務内容

秋田県の基幹産業である農業と農村の発展を図り、元気で活力ある農山村をつくるため、農業の生産基盤となる農地や用排水路、ため池などの整備事業に関する調査、計画策定、設計・積算、工事監督などの業務を行います。

また、農地等の多面的機能を維持するための地域活動や、グリーン・ツーリズム、里地里山※の保全活動などへの支援のほか、土地改良区や市町村などの関係機関との調整業務などを担当します。

業務内容は主に次の3つに分類できます。

攻め拓く基盤づくり ～稼げる産地形成～

全国第3位の面積を誇る広大な水田をフル活用し、基幹作物である水稻の需要に基づいた生産と、高収益作物の生産拡大に取り組み、“稼げる産地形成”を目指します。

【関連事業】ほ場整備事業（経営体育成基盤整備事業）、水田畑地化基盤整備事業 等

守り生かす地域づくり ～里地里山の魅力発揮～

優れた景観を有する里地里山が県民共有の財産として後世に引き継がれるよう、地域資源を最大限に活用しながら、中山間地域の農業と農山村の維持に取り組み、“里地里山の魅力発揮”を推進します。

【関連事業】元気な中山間農業応援事業、中山間ふるさと秋田づくり総合支援事業、Cool Akita農泊推進事業、日本型直接支払交付金事業 等

支え受け継ぐ土台づくり ～未来につなげる農業農村～

災害から県民の生命と財産を守るため、地域の協働力を活用した保管理や防災・減災力を強化するとともに、土地改良区等の組織体制強化に取り組み、“未来につなげる農業農村”の実現を目指します。

【関連事業】ため池等整備事業、基幹水利施設ストックマネジメント事業、農地地すべり対策事業 等

※里地里山…山村地域の集落とその周辺にある田んぼ等の農地や生活に結びついた森林からなる地域。

攻め拓く基盤づくり ～稼げる産地形成～

ほ場整備担当の実務

ほ場整備事業って？

【課題】

- ・区画が小さく、農作業の効率が悪い
- ・用水と排水を兼用した土水路で維持管理が大変
- ・農道が狭く、作業車等のすれ違いができない
- ・排水性が悪く、畑として利用できない



【事業効果】

- ・ほ場の区画整理(区画の整形、大区画化)
 - 労働時間と生産コストの縮減
- ・用水路、排水路の整備(分離)
 - 維持管理労力の軽減
- ・暗きょ排水の整備
 - 排水性が向上し、転作も可能に



職員はどんな仕事をしているの？



地元との打ち合わせ

①地元農家との打合せや説明会を行い、

より良い営農計画を考えます。

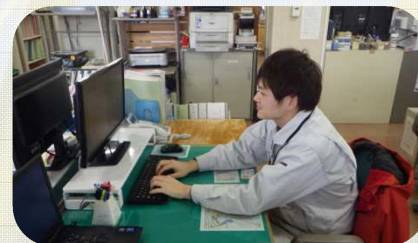
事業の計画段階から、地元農家と一緒に地区の営農方針を協議します。

また、ほ場整備事業の実施は農家の費用負担を伴うため、事業内容や工事内容の説明を十分に行います。

②設計積算を行い、工事を発注します。

地元農家との打合せ内容を考慮しつつ、工事の設計と発注に向けた積算を行います。

積算システムや図面処理ソフト(CADソフト)を用いて作業します。

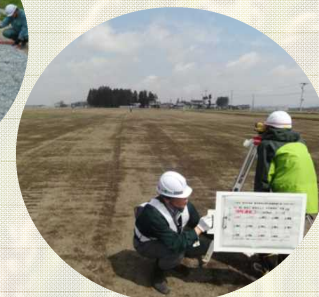


設計・積算作業

③工事の着手から完成まで監督員として従事します。

工事が始まると、監督員として現場指導や段階確認を行います。

段階確認とは、作業工程ごとに出来形や発注内容どおりの工事となっているかを確認する業務です。



守り生かす地域づくり ～里地里山の魅力発揮～

日本型直接支払制度 担当の実務

日本型直接支払制度って？

【農山村地域の多面的機能】

農業・農村は米や野菜を作るだけでなく、人と自然に優しい、様々な機能を有しています。

例えば、田畑は水を貯え、洪水や土砂崩れを防ぎ、きれいな地下水をつくります。また、農村では、伝統文化や芸能が受け継がれ、里山や水辺が一体となった美しい風景をつくっています。

こうした働きを「多面的機能」と呼んでいます。

【日本型直接支払制度を活用した農山村地域の多面的機能の保全】

農山村地域は、高齢化や人口減少により、集落機能が低下してきており、今後、農業・農村の「多面的機能」を守っていけるか懸念されています。

持続的な「多面的機能」の発揮のため、地域の農地や農業用水路等を地域住民で守る共同活動を支援するのが「日本型直接支払制度」です。

職員はどんな仕事をしているの？

- ①国の日本型直接支払制度を活用し、地域資源を守る共同活動に取り組む団体に活動費用を交付します。

活動費用は国、県、市町村が負担しており、県では、活動計画や取組状況を調査した上で、必要な活動費用を国に予算要求し、市町村を経由して共同活動を行う各団体に交付しています。



水路の草刈り活動



花の植栽活動



学校教育との連携

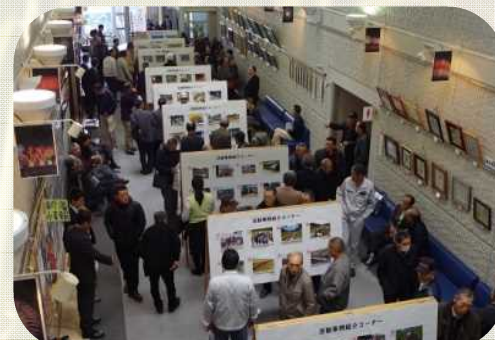
- ②日本型直接支払制度の推進活動を行います。

日本型直接支払制度による活動が適切に行われ、また、活動を広く展開していくため、地元説明会等の開催や、各団体からの相談に対する個別の面談等を行っています。

そのほか、模範となる活動事例の紹介や、制度による活動を広く県民へPRするフォーラムの開催等を行っています。



説明会



フォーラム

守り生かす地域づくり ～里地里山の魅力発揮～

中山間ふるさと秋田づくり 総合支援事業担当の実務

中山間ふるさと秋田づくり 総合支援事業って？

【魅力あふれる農山村創生事業】

中山間地域等の農地等の保全や活用を図るため、地域特産物や棚田などの地域資源を活用したオーナー制度や消費者との交流活動など、地域や農業者自らが地域活性化のために行う様々な取組を支援しています。

【活力ある農山村チャレンジ事業】

中山間地域等の地域資源と農地や農業用水路等が持つ多面的機能の役割について普及・啓発を図るとともに、地域活性化のための人材の育成及び地域住民活動を支援します。

職員はどんな仕事をしているの？

①秋田にある農山村地域の魅力を調査・PRします。

県内各地に眠っている農山村地域の魅力を発見すべく、市町村や地域の方々と連携し、現地調査や打合せを行います。担当者自らの提案がイベントの開催などにつながることもあります。



～守りたい秋田の里地里山50～
「黒土地域」(五城目町)



～守りたい秋田の里地里山50～
「小割沢地域」(鹿角市)

②事業を実施する地域の方々への説明会や打合せなどを行います。

各地域で取り組みたい企画の内容に応じ、活用できる事業について説明します。企画の内容が決まれば、正式に事業として認める手続きを行うとともに、準備段階から関係者との打合せに加わるなど、企画の開催を支援します。



田んぼのオーナー制度
による田植え体験



茅葺き集落の再生計画
と修復体験イベント



講師を招いてのワークショップ

支え受け継ぐ土台づくり ～未来につなげる農業農村～

ため池整備担当の実務

ため池整備事業って？

【ため池とは】

農業用水を確保するために水を貯え、必要に応じて取水ができるよう、人工的に造成された池のことで、秋田県では約2,500箇所ものため池が利用されています。

【課題と実施内容】

造成されてから相当の年数が経過しているものも多く、老朽化による機能低下や耐震性能などが問題となっています。

決壊した場合、下流にある人家や学校などの公共施設が被害を受ける可能性があるため、優先度が高いものから補修や補強を行います。



職員はどんな仕事をしているの？

①施設管理者(土地改良区など)との

意見交換を重ね、事業計画を検討します。

ため池は、土地改良区や市町村等が管理者となるため、維持管理方針を含めた検討会を実施します。

②ボーリング調査などを行って最適な工法を検討し、 事業計画を作成します。

専門業者に委託して、施工箇所のボーリング調査を実施し、土質等を調査します。

また、コスト面や施工性だけでなく、耐震性など安全面についても同時に検討を行い、最終的に事業計画としてまとめます。

③工事の着手から完成まで監督員として従事します。

ほ場整備工事と同様に、現場監督として従事しますが、ため池整備事業では洪水吐などの大型のコンクリート構造物を併せて整備することがあるため、確認すべき内容は工事により異なります。



ボーリング調査



◆秋田県の農業農村整備の取組方針

攻め拓く基盤づくり
～稼げる産地形成～

守り生かす地域づくり
～里地里山の魅力発揮～

支え受け継ぐ土台づくり
～未来につなげる農業農村～



我が国の農業を取り巻く情勢は、米政策の見直しや国際通商条約の発効による産地間競争の激化、人口減少を背景とした労働力不足の顕在化や、ICT・AI等の先端技術を活用した農業の推進など、大きな転換期を迎えております。

本県では、「米依存からの脱却」と「農業産出額の増大」を目標に掲げ、複合型生産構造への転換を強力に推進してきました。そうした中、県の農業産出額1,843億円(H30年)のうち、米が全体の56%を占め、依然として米に偏っておりますが、米以外の産出額は近年、増加傾向で推移し、成果を上げてきております。

生産コストの縮減や野菜などの畑作物への転換、活力ある農村社会づくりなどを実現する農業農村整備事業の要望は増加しており、農家の方々が持続発展し、農業経営を続けられるよう、市町村や関係組織と協力して農業農村整備事業を推進します。

◆将来の職業を考えている皆さんへのメッセージ

農業農村工学職の“魅力”や“やりがい”

- 農業の基盤整備を担うという責任ある仕事だということ。また、現場が目に見えて整備されていくことから、大きなやりがいを感じることができます。さらには、全国でも代表的な農業県である秋田県の農業に行政側から関われることは大きな魅力です。
- 事業が完了し、地元農家から感謝の言葉を頂いた時は本当に嬉しく、自信とモチベーションの向上につながります。
- 全県各地の転勤となりますが、同じ農業農村工学職で採用された方々の配置替えですので、一緒に仕事をしたことのある仲間がどんどん増えていきます。

ぜひ私たちと一緒に働きませんか？

農業農村工学職の仲間をお待ちしております☆

